

# 談話標識 *meanwhile* の機能の展開

The Functional Development of the Discourse Marker *meanwhile*

松尾 文子\*

Fumiko Matsuo

キーワード：meanwhile、談話標識、視点の移動、対照、話題転換

Key words : meanwhile, discourse markers, shift of viewpoint, contrast, topic changer

## 要旨

本稿では、時を表す副詞の *meanwhile* が談話標識として用いられるようになってきていることを例証する。以下の4つの意味・機能について論じる。

- (i) 「その間 [合間] に・(次に何かが起こるまで) さしあたっては」：2つの時や出来事の間  
に (時を表す副詞)
- (ii) 「同じころ・そうしているとき [間] に」：同時に異なる場所で (談話標識：視点の移動)
- (iii) 「一方では・対照的に」：2つの事柄が、とくに全く異なっていて同時に生じている場合  
にその2つを比較して (談話標識：対照)
- (iv) 「ところで」：話は変わって (談話標識：話題転換)

これら談話標識の3つの用法は、それぞれが次のように特徴づけられる。談話標識 (ii) は「同時性」という特徴をもち、談話標識 (iii) と (iv) は「対照性」という特徴をもつ。(iii) の「対照性」は、2つの陳述、すなわち *meanwhile* の先行部と後続部の内容レベルで見られる。(iv) の「対照性」は、2つの陳述の話題レベルで見られる。

## Abstract

This paper illustrates that the adverb of time *meanwhile* has come to be used as a discourse marker. The following four meanings and functions are discussed.

- (i) in the period of time between two times or two events (adverb of time)
- (ii) at the same time but in another place (discourse marker: shift of viewpoint)
- (iii) compare two things, especially if they are completely different and are happening at the same time (discourse marker: contrast)
- (iv) change the topic (discourse marker: topic changer)

There are three types of discourse marker uses. Each use is different and can be contrasted as follows. The discourse marker (ii) is characterized by “simultaneousness,” and (iii) and (iv) are characterized by “contrastiveness”. The “contrastiveness” of (iii) is exhibited on the content level of two statements, that is, the statements preceding and following *meanwhile*. That of (iv) is exhibited on the topic level of two statements.

---

\* 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo University of Health Sciences

## I. はじめに

本稿では、時を表す副詞の meanwhile が談話標識としての機能を展開させていることを、実例を挙げて論じる。以下の4つの意味・機能を検討する。

- ①「その間 [合間] に・(次に何かが起こるまで) さしあたっては」
- ②「同じころ・そうしているとき [間] に」(視点の移動)
- ③「一方では・対照的に」(対照)
- ④「ところで」(話題転換)

meanwhile の原義が反映されている①は時を表す副詞であるが、②③④では談話標識としての機能をもつ。④に関しては、II- 2. で挙げる辞書類には記述が見られない。

## II. 過去の文献における記述

### II- 1. 語法・文法書、論文

meanwhile の用法に関して、各種文献ではどのように説明されているのだろうか。まず語法・文法書の記述を見る。Quirk, Greenbaum, Leech, et al. (1985:634-636, 639-640)<sup>1)</sup>では、副詞類は adjunct (付加詞)、subjunct (下接詞)、disjunct (離接詞)、conjunct (接合詞) の4つに分類され、meanwhile は conjunct に区分される。conjunct の表す意味は、列挙、要約、同格、結果、推論、対比、移行の7つに分類される。移行を表す語句は、他のトピックや時間的な関係がある (temporally related) できごとに注意を移動させる機能を持ち、前者が談話的移行、後者が時間的移行である。談話的移行を示すものには incidentally、now、by the way などが、時間的移行を示すものには meantime、meanwhile、subsequently、eventually などが含まれる。

Biber, Johansson, Leech, et al. (1999:763, 765, 776, 783, 875-879)<sup>2)</sup>では、副詞類は circumstance adverbial (状況副詞)、stance adverbial (態度副詞)、linking adverbial (接続副詞) の3つに分類され、meanwhile は circumstance adverbial と linking adverbial に区分される。circumstance adverbial は3つの副詞類の中では節構造に統合される度合いが最も高く、当該の節で述べられる行為や状態に関する情報を付加する機能を持ち、場所、時、様態、原因・理由、程度、付加など幅広い意味を表す語句が含まれる。linking adverbial は節構造に統合される度合いが circumstance adverbial よりも低く、2つの談話単位の間を明示する機能を持ち、列挙・付加、要約、同格、結論・推論、対比・譲歩、移行の6つの意味に分類される。circumstance adverbial に区分される meanwhile は linking adverbial に似た機能を持ち、先行節と後続節の関係を示す。ここで挙げられている例文を見る限りでは、「一方では」の意味を表わす。linking adverbial に区分される meanwhile は、先行談話と直接的にはつながらない項目の挿入を示す。meanwhile の後続部で提示される新情報は、先行談話とゆるやかに (loosely) 結び付いているかまったく結びついていない。これらの副詞類は別の、通例本筋から脱線した話題に移行することを表す。この種の副詞類として、by the way、incidentally、now、meanwhile が挙げられているが、now と meanwhile の例文は挙げられていない。

英語の談話標識に関する論文を多数発表している Fraser の中で、Fraser (2006)<sup>3)</sup>では談話標識が表す談話単位間の関係として、elaboration (詳細表示)、contrast (対比)、inference (推論)、temporality (時) が挙げられている。meanwhile は temporal marker (時を表すマーカー) に区分される (注1)。

## II- 2. 辞書類

本論文で考察する meanwhile の4つの意味・機能を再提示する。

- ①「その間 [合間] に・(次に何かが起こるまで) さしあたっては」
- ②「同じころ・そうしているとき [間] に」(視点の移動)
- ③「一方では・対照的に」(対照)
- ④「ところで」(話題転換)

これらの意味・機能に関する各種辞書における記述の有無は以下のとおりである。まず英和辞典を見ると、参照した『アクシスジーニアス英和辞典』『ウィズダム英和辞典』『エースクラウン英和辞典』『オーレックス英和辞典』『コンパスローズ英和辞典』『ジーニアス英和辞典』<sup>4-9)</sup>のいずれにおいても①～③が記載されている。

次に、英英辞典ではどうであるか。*The New Oxford Dictionary of English*<sup>10)</sup>では①のみが記載されている。①と②の記述があるのは、*BBC English Dictionary*<sup>11)</sup>、*Concise Oxford Dictionary*<sup>12)</sup>、*Cambridge International Dictionary of English*<sup>13)</sup>、*Cambridge Dictionary of American English*<sup>14)</sup>、*Collins COBUILD Student's Dictionary*<sup>15)</sup>、*Collins COBUILD Learner's American English Dictionary*<sup>16)</sup>の6種類である。①②および③の記述があるのは、*Oxford Advanced Learner's Dictionary*<sup>17)</sup>、*Macmillan English Dictionary*<sup>18)</sup>、*Longman Dictionary of Contemporary English*<sup>19)</sup>、*Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary*<sup>20)</sup>の4種である。

④に関する記述は、I. で述べたように、英和辞典でも英英辞典でも見られない。

## II- 3. 談話標識とは何か

談話標識は、「聞き手が発話を正しく理解できるように話し手の発話意図を合図する」というコミュニケーション上の役割を担う。その合図には用いられる文脈に応じて、以下のようなものがある。話し手が談話をどのように組み立てていくかを合図する「談話構成機能」、話し手が情報を受け取ったことや、情報を聞き手と共有したかなどを合図する「情報授受・交換機能」、話し手がこれからどのようなスタンスで陳述するのかを合図する「態度・感情表明機能」、会話を円滑に進めるために、話し手と聞き手の人間関係を調整する「対人関係機能」である。これらのことは、話し言葉のみならず書き言葉にも当てはまる。本稿で論じる meanwhile は、上記4つの中の「談話構成機能」をもつ。談話標識に関して、詳細は松尾・廣瀬・西川(2015)<sup>21)</sup>を参照されたい。

## III. その間 [合間] に・(次に何かが起こるまで) さしあたっては

A meanwhile Bの形で、事象(ある行動・出来事・状態。以下、「事象」と記す)Aが生じるまでの間に事象Bが生じることを表し、meanwhile は時を表す副詞の機能をもつ。なお、①～④の意味・機能において、通例、meanwhile が事象Bの先頭に来る。*The New Oxford Dictionary of English*<sup>10)</sup>で示されている説明が、meanwhile の語源を最も色濃く反映している。同辞書によると、語源は以下のとおりである。

ORIGIN late Middle English: from MEAN<sup>3</sup> + WHILE

MEAN<sup>3</sup>は、ORIGIN Middle English: from Old French *meien*, from Latin *meduanus* 'middle'

WHILEは、Old English *hwil* 'period of time,' of Germanic origin: related to Dutch *wilf*.

現在用いられる意味に関しては、II. で挙げた英英辞典ではおおむね、in the period of time between two events、あるいは in the period of time between two times or two events と定義されている。

例を見よう。次は、フェンストンファイナンス会長のフェンストンと秘書のティナ、フェンストンの側近の弁護士リープマンの会話である。アメリカン航空の飛行機がノース・タワーに激突したので、JFK空港が閉鎖されている。フェンストンは、イギリスのヒースロー空港に向かう予定である。

- (1) “The first flight out of JFK won't be taking off for another couple of days,” said Tina. “Does that include private aircraft?” asked Fenston. “There are no exceptions,” Tina assured him. “The Saudi royal family are being allowed to fly out tomorrow,” interjected Leapman, who was standing by the chairman's side, “but they seem to be the only exception.” “*Meanwhile*, I'm trying to get you on what the press are describing as the priority list,” said Tina, …—Archer, *False Impression* (「JFK発の最初の便は、あと2日は飛びません」とティナが言った。「自家用機もそれに含まれるのか？」と、フェンストンが尋ねた。「例外はまったくありません」ティナは断言した。「サウジの王室に明日飛行許可が下ります」と、会長のそばに控えているリープマンが言った。「しかし、例外はそれだけのようです」「さしあたっては、報道が優先リストと呼んでいるものに、あなたを入れるよう努力しているところです」とティナは言った。…)

ここでは、事象A「飛行の許可が下りる」ということが起こるまでの間に、事象B「ティナが優先リストに会長の名前を入れる努力をする」ということが起こるということである。

次例は、疾病管理センターに所属するウィルス学者の医師であるマリッサに対する上司のダブチェックの言葉である。マリッサは、エボラ出血熱の疑いがある患者が出たセントルイスの病院に派遣されている。彼女はその患者がエボラ出血熱に罹患していると確定して、上司に電話で報告した。それを受けて上司はセントルイスの病院に行くことになった。

- (2) “We'll be there as soon as possible,” said Dubchek. “Probably tonight. *Meanwhile*, I want you to stop all further lab work and supervise a thorough disinfection. …”—Cook, *Outbreak* (「できるだけ早くそこ(病院)に行くよ」ダブチェックが言った。「たぶん、今夜。さしあたっては、さらなる検査の仕事は全部中止させて、徹底的な消毒をするように監督してほしい。…」)

ここでは、事象A「上司が病院に到着する」ということが起こるまでの間に、事象B「マリッサが検査を中止して消毒をするように監督する」ということが起こるということである。

このように、事象AとBはいずれも発話時点から先のことを表す。収集した例から推測できる範囲ではあるが、主に話し言葉で用いられる。この用法の *meanwhile* は、時を表す副詞である。この用法に関しては、Quirk, Greenbaum, Leech, et al. (1985)<sup>1)</sup>の時間的移行を示す conjunct (接合詞)に、Fraser (2006)<sup>3)</sup>の temporal marker (時を表すマーカー)に該当する。

#### IV. 同じころ・そうしているとき [間] に (視点の移動)

A *meanwhile* Bの形で、事象AとBが同時に生じていることを表し、「同時性」という時間的な特徴を持つ。一方、V. で述べる「一方では・対照的に」の意の用法と比較すると、AとBで示さ

れる事象の「対照性」(AとBで述べられる内容面でのギャップ)はまったく、あるいはあまり感じられない。

II. で挙げた多くの英英辞典では、この用法の意味は *while something else is happening* と示しているが、*Concise Oxford Dictionary*<sup>12)</sup> と *Macmillan English Dictionary*<sup>18)</sup> には、*at the same time* という記述がある。また、Princeton 大学のチームが作成している語彙分析ツールの WordNet<sup>22)</sup> には、*at the same time but in another place* とある。WordNet の定義はこの用法の特徴をよく捉えていて、「同時性」という特徴を利用しつつ別の人物や場所 (*in another place*) に視点を移動させる機能をもつ。「視点」ということから、この用法は語り(書き言葉)で多く見られる。

例を見よう。次は、2人の人物が一緒にカフェに入った場面である。

(3) I ordered a small glass of wine. *Meanwhile*, Jones had taken out a French newspaper and called to the waiter for a cup of tea.—Horowitz, *Moriarty* (私はワインを小さいサイズのグラスで注文した。ジョーンズの方はフランスの新聞を取り出して、ウェイターを呼んでお茶を注文した。)

語り手の視点は「私」から「ジョーンズ」に移動しているが、両者の行動は対照的ではない。この例では事象A(私の行動)とB(ジョーンズの行動)の描写は短い。以下に挙げるように、長い描写を *meanwhile* でつなぐ例が多く見られる。

次例は小説からの引用であるが、章をまたいで、つまり章の冒頭の部分で *meanwhile* が用いられている。ジェリーは保釈中の美術品窃盗犯で、プリンストン大学の図書館で有名な作家の貴重な原稿を盗むのに成功した後、窃盗犯仲間の3人と共にくつろいでいる。キャロルはジェリーのガールフレンドである。

(4) Carole, the woman living in Jerry's apartment, left at 4:30, alone, [...]. When she returned home just after 9:00, every step was watched, filmed, and recorded. [章が変わって]  
*Meanwhile*, her boyfriend sipped beer and read *The Great Gatsby* in a hammock on the rear porch, ...—Grisham, *Camino Island* (キャロルはジェリーのアパートで同居している女性で、4時30分に一人で家を出た。[...] ちょうど9時過ぎに帰宅したとき、(FBI捜査官によって)彼女の足取りはすべて監視され、録画され、録音されていた。[章が変わって] 一方そのころ、彼女のボーイフレンドは裏のポーチでハンモックに横たわってビールを飲みながら『グレート・ギャツビー』を読んでいた。...)

語り手の視点は「キャロル」から「ジェリー」に移動していて、事象A(キャロルの行動)とB(ジェリーの行動)は異なる章で書かれている。しかし、章が変わった冒頭に *meanwhile* があることで、2つの事象が同時に生じていることが明示される。2人の行動自体に対照性はない。ただし、キャロル自身は意識していないとはいえ、語り手から見て彼女は好ましくない状況であるのに対して、ジェリーはのんびりとくつろいで過ごしている好ましい状況であるという意味では、対照性が感じられる。

次例は、アメリカ大統領がさまざまな苦難に直面しながらもサイバー攻撃から国を守ることに成功したあとで、そのことに関する演説を国民に向けて行った後の記述である。語り手の「I」はアメリカ大統領自身で、*immune thrombocytopenia* (ITP免疫性血小板減少症)を患っている。

(5) The Speaker has been grudgingly helpful. [...] The Speaker's still deciding his next move. [...]

Carolyn Brock was hit with a twenty-count indictment, [...]. *Meanwhile*, I finally let Dr. Deb give me the protein treatment along with a steroid infusion. ...—Clinton & Patterson, *The President Is Missing* ((対立党の) 下院議長は不承不承ながら協力的な態度を示している。[...] 下院議長は、いまだに次の(政治的な)動きをしようとしている。[...] (大統領補佐官の) キャロリン・ブロックは、20件の起訴で痛手を被った。[...] 一方そのころ、私はというと、(主治医の) デブ医師にタンパク質療法をステロイド剤の注入に並行して行ってもらうことにした。...)

事象 A (大統領の演説後の議会やキャロリンの様子など) から meanwhile を合図に事象 B (語り手の大統領自身の様子) へと視点が移動している。事象 A と B で述べられる内容に対照性は見られない。

次例では、おなじみの探偵シャーロック・ホームズと彼の盟友で医師のワトソンが登場する。例文を引用した小説の *Moriarty* は、Arthur Conan Doyle の *The Final Problem* (『最後の事件』) で描かれたホームズとモリアーティの対決の5日後に、探偵社のある調査員がライヘンバッハの滝を訪れるという設定から始まる。ホームズの宿敵のモリアーティ教授は犯罪組織のボスで、組織を壊滅させられた復讐のために、ホームズとワトソンをライヘンバッハの滝に呼び出す。2人は滝に出かけたが、滞在中の旅館の使いの者だと名乗る少年がやって来て、旅館で病人が出たので診察してほしいと言う。ワトソンは旅館に急ぐが、だまされたと気づいて滝に戻る。ワトソンがいない間にホームズと宿敵のモリアーティ教授は崖の上で取っ組み合いになり、モリアーティが崖から落下した後の場面である。ワトソンは2人とも崖から転落したと思い込んでいる。

(6) On the spur of the moment, he (=Holmes) decides to use what has just occurred to feign his own death. [...] *Meanwhile*, Dr Watson, realising he has been tricked, rushes back to the scene, where an abandoned alpenstock and a set of footprints tell their own tale.—Horowitz, *Moriarty* (とっさに、彼(=ホームズ)は起こったことを利用して自分は死んだように見せかけようと決断する。[...] 一方そのころ、だまされたと気づいてワトソンは大急ぎで現場へ戻ってくる。しかし、放置された登山用のストックと2組の足跡が何が起こったかを物語っているだけだ。)

事象 A はホームズの行動、事象 B はワトソンの行動である。meanwhile を合図に語り手の視点はホームズからワトソンに移動するが、2人の行動に対照性はない。

最後に、meanwhile が話し言葉で用いられている例を挙げる。話し手はメジャーリーガーで、試合でアメリカ中を移動している。妻のレイチェルは売れっ子のモデルである。

(7) “Rachel was very successful. She was always booked, and her work took her all over the world. [...] *Meanwhile*, I was playing ball around the country. We didn't get together very often. ...”—Sheldon, *The Sky Is Falling* (「レイチェルは大成功をおさめた。いつもスケジュールが詰まっていて、世界中を飛び回っていた。[...] 一方、僕はどうかというと、試合で国中を移動していた。顔を合わせることはほとんどなかったよ。...」)

事象 A はレイチェルが置かれている状況、事象 B は話し手が置かれている状況である。meanwhile を合図に語り手の視点は妻のレイチェルから語り手自身に移動するが、2人の状況に対照性は見られない。2人は夫婦でありながらそれぞれ別々の生活をしているが、たとえば妻が成功しているの

に対して語り手が惨めな状況にあるようなことは書かれていない。

この用法では、事象AとBは同時に生じていて、meanwhile は事象AからBへと視点を移動させる機能をもつ。AとBの描写が長くても meanwhile によって視点の移動が明示される。AとBの内容の対照性に関しては、(4)のように対照性が感じられる場合もあれば、他の例のようにまったく感じられない場合もある。視点の移動の機能は、特に語りにおいて力を発揮する。meanwhile によって、読み手が語り手と一体になって視点を移動させているかのように感じられる。この用法の meanwhile は、談話の構造を明示するのに貢献することから、談話標識の機能をもつと言える。

## V. 一方では・対照的に(対照)

A meanwhile Bの形で、事象AとBの内容の「対照性」(AとBで述べられる内容面でのギャップ)に焦点が当てられる。*Macmillan English Dictionary*<sup>18)</sup>では emphasizing the difference between two situations、*Longman Dictionary of Contemporary English*<sup>19)</sup>では compare two things, especially if they are completely different and are happening at the same time とある。この定義で注目すべきは下線を施した箇所、同じく対照を示す談話標識の on the other hand では必ずしも見られない「同時性」が meanwhile には見られる。このことは、V- 3. で述べる。

### V- 1. 実例

次例は、ファッション誌『ランウェイ』のライターであるナイジェルに対して働いた仕事上の非礼に、アンディとエミリがどのように対応したかを対照させている。2人はある雑誌の共同発行人かつ編集者で、以前は『ランウェイ』に関わっていて、ライターとは元同僚という間柄である。

(8) After the Paris debacle, Andy hadn't returned to the *Runway* offices to collect as much as a pencil, [...]. *Meanwhile*, Emily claimed she'd flied to his office within seconds of being fired, only to be met with a closed door and an uncooperative assistant.—Weisberger, *Revenge Wears Prada* (パリでの大失敗のあと、アンディは『ランウェイ』のオフィスには戻らなかった。鉛筆1本でさえ、取りに戻らなかったのだ。[...] 一方、エミリはクビになった直後にナイジェルのオフィスに飛んで行ったが、中には入れてもらえずアシスタントに冷たい扱いを受けただけだったということだった。)

ここでは、事象A(アンディはナイジェルに詫び行かなかった)と、事象B(エミリは失敗に終わったとはいえ、詫びに行った)に対照性が見られる。

次例は、チャーリーズ・エンジェルズのメンバー3人のうちの1人であるアレックスの言葉で、ある会社の社員に講義をしている。チャーリーズ・エンジェルズとは、チャーリー探偵事務所に所属する女性探偵グループである。

(9) ALEX: Your methodologies are antiquated and weak. Your procedures of approval ensure that only the least radical ideas are rewarded. *Meanwhile*, your competition is innovating!  
—*Charlie's Angels* [映画台本] (あなたたちの方法論は、時代遅れで説得力がありません。あなたたちが認めるやり方では、過激さに欠ける考え方しか評価されないことになります。その一方で、あなたたちの競争相手はどんどん新境地を拓いていくのです！)

ここでは、事象A（この会社の現状）と事象B（他社の現状）を対照させている。この会社の経営戦略では保守的な失敗しない方法しか認められないので、革新的なアイデアが出ないと批判している。それに対して、他社は改革を進めていると述べている。

次に、meanwhile が対比・逆接を表す but と共起する例を挙げる。次例は、アメリカ大統領首席補佐官のキャロリンの大統領に対する言葉である。ゴードン議員は、自分こそが大統領にふさわしい人物だと考えている。また、2つの法案に関して大統領とは反対の立場を取っている。

- (10) "I'm not afraid of Gordon primarying you," says Carolyn. "I'm afraid of him *thinking* about primarying you. Privately encouraging speculation. Allowing himself to be courted. Reading his name in the *Times* or on CNN, [...] Gordon will get nothing but a nice vanity tour out of it, *but meanwhile*, your credibility is undercut every second it happens. He looks bright and shiny; you look weak."—Clinton & Patterson, *The President Is Missing*（「ゴードン議員が大統領予備選挙に出馬することを危惧しているのではありません」とキャロリンが言う。「私が危惧するのは、彼が出馬を検討することです。個人的に憶測を呼んで、周囲の気を引くでしょう。ゴードンという名前が『タイムズ』紙に載り、CNNでも流れます。[...] ゴードン議員は、そのたびに虚栄心をくすぐられてご機嫌になり、でも一方で、そのたびにあなたは大統領としての威信を傷つけられます。彼はまぶしく輝いて見え、あなたは弱虫に見える」）

ここでは、事象A（注目を浴びるゴードン議員）と事象B（威信を失う大統領）を対照させている。これまでに挙げた例から分かるように、この用法では、事象Aと事象Bにはそこで述べられる内容に関する「対照性」が見られる。

## V-2. 英英辞典・語法書・論文・コーパスでの記述

この対照を表す用法は、先述のように英英辞典の中には記述がないものがある。また、Quirk, Greenbaum, Leech, et al. (1985:635-636)<sup>1)</sup>の対比を表す conjunct（接合詞）、Biber, Johansson, Leech, et al. (1999:879)<sup>2)</sup>の対比を表す linking adverbial（接続副詞）、Fraser (2006:196)<sup>3)</sup>の contrastive marker（対比標識）にも挙げられていない。さらに、代表的な語法書である Carter and McCarthy (2006:258-259)<sup>23)</sup>の対比を表す linking adverbial（接続副詞）と Swan<sup>4)</sup> (2016:†284, 301)<sup>24)</sup>の対比を表す談話標識にも挙げられていない。

しかしながら上述のように、実際に小説や映画での使用例が見られる。さらにコーパスで例を見てみる。ここでは、Corpus of Contemporary American English (COCA)<sup>25)</sup>、British National Corpus (BNCweb)<sup>26)</sup>、Sketch English for Language Learning (SkELL)<sup>27)</sup>、Google Scholar<sup>28)</sup>を取り上げる。

例を見る前に、コーパスで談話標識を扱う際の難点を示しておく。meanwhile の意味・機能を確定するには、前後の言語的文脈のみならず当該の発話や文が用いられている広い文脈（発話の場面、発話や文が用いられるさまざまな背景）を考慮する必要がある。言語的文脈でも、特に先行文脈に関して、直前の発話や文だけでなく、かなり広い範囲の文脈が必要な場合が少なくない。他の談話標識の例を挙げると、actually は「実（際）は、本当のところは」の意で、見せかけ・予想と真実・現実のずれを表す場合と、これとは逆に「実を言うと、詳しく述べると」の意で、先行発話の明確化・正当化を表す場合がある（松尾・廣瀬・西川 2015:2-13)<sup>21)</sup>。and には多くの意味・機能があるが、「それに」の意でコメントを付加する場合、「だから」の意で結果を表す場合、「それなのに」の意で対比・



譲歩を表す場合などがある（松尾・廣瀬・西川 2015:175-185）<sup>21)</sup>。また、well では驚きやためらい、いらだちなど話し手のさまざまな態度が表されたり、「さて、ところで」の意で、話題転換を表すことがある（松尾・廣瀬・西川 2015:260-269）<sup>21)</sup>。いずれの談話標識でも、意味・機能の確定にはかなり広範囲の文脈を読み込む必要がある。さらに、特に間投詞由来の well では、音調も関係してくる。

このように、コーパスで談話標識を扱うことには限界がある。したがって、意味・機能の確定については正確さには欠けるが、おおよその傾向は分かる。以下、meanwhile と、but meanwhile、meanwhile however の連語の各種コーパスにおけるデータを見る。

COCA<sup>25)</sup> は現代アメリカ英語 4 億 5 千万語以上から成る。テレビ・映画、インターネットのブログ、ウェブページ、小説、雑誌、新聞、学術論文・レポートなどから例が集められている。

BNCweb<sup>26)</sup> はイギリス英語の書き言葉約 9,000 万語、話し言葉約 1,000 万語の合計約 1 億語から成るコーパス British National Corpus を web 検索できるようにしたものである。

SkELL<sup>27)</sup> は語句の使われ方（連語関係、類語、例文）を調べることができる検索エンジンで、10 億語以上、5,700 万以上の例文から成るコーパスである。例文のジャンルは、Wikipedia、English Web 2013、Timestamped web corpus、British National Corpus、WebBootcat などからで、学術論文、ウェブページ、ニュース、ブログ、フォーラムなど分野は多岐にわたる。

Google が提供する論文検索サイト Google Scholar<sup>28)</sup> では、論文や記事などの本文のほかこれらタイトルの例文として含まれている。例文のソースには、Economic Review、National Roundabout Conference、TESOL Quarterly、Biotechnology Journal、Journal of Political Economy、The Modern Language Journal、European Journal of Medicinal Chemistry、The Economic Journal、Scientific American、Psychiatric Rehabilitation Journal などがある。経済、科学、医学、言語学などさまざまなジャンルが含まれることが分かる。また、論文検索サイトであるので、学術的な書き言葉が多いと推測できる。上記 4 つのコーパスにおける meanwhile、but meanwhile、meanwhile however の出現数は、次の表のとおりである。

表 1：各種コーパスにおける meanwhile・but meanwhile・meanwhile however の出現数  
(数値は2021年10月13日時点)

コーパス名 \ 語句	meanwhile	but meanwhile	meanwhile however	コーパスの 総語数
COCA	42,318	314	3	約 4 億 5 千万 語
BNCweb	4,709 (100 万語 あたり 47.9)	54 (100 万語 あたり 0.55)	1 (100 万語 あたり 0.01)	約 1 億語
SkELL	100 万語あた り 43.83	100 万語あた り 0.17	100 万語あた り 0.01	約 10 億語 以上
Google Scholar	657,000	457,000	504,000	

meanwhile には複数の意味・機能があり、これらのコーパスの例文でそれぞれの機能を正確に確定するのは困難である。また、上に挙げた数値に関して例文のジャンルは考慮していないが、いずれのコーパスの数値においても、例文を見る限り対照を表す例がかなり見られる。また、客観性

の高い表現が用いられる学術的な書き言葉の分野においても、対照を表す meanwhile がかなり広く用いられていると推測できる（注2）。ただし、Google Scholar で but meanwhile と meanwhile however の連語が相当数見られることから、当該の meanwhile が対照を表すということを明示するためには、客観性が重視される学術の分野においては、but や however による意味の補強が望ましいと考えることができる。この点では、類義表現の on the other hand の方が対照を明確に表すことができる。on the other hand との比較は、次節で詳しく述べる。

最後に、先述の11種類の英英辞典のうち、6種類でこの機能の記述が見られない理由を考える。意味・機能②③とも 事象AとBでは「何か別のことが起こっている」ことを表すが、どの特徴に焦点が置かれているかが異なる。A meanwhile B の形で、②ではAとBの2つの事象の「同時性」に焦点が置かれている。一方、③ではAとBの2つの事象の内容の「対照性」に焦点が置かれている。この点で両者には違いがあるが、両者の共通点で2つの機能がまとめられていると考えられる。

### V- 3. on the other hand との比較

対照を表す代表的な談話標識の on the other hand と比較する。on the other hand はしばしば on the one hand 「一方では」と呼応して、「他方では、これに対して；これに反して、反対に、逆に」の意を表す。2つの対照的な視点や見解、事実や可能性を述べる（松尾・広瀬・西川 2015:161）<sup>21)</sup>。meanwhile に見られる「同時性」は必ずしも必要ではない。「同時性」が見られない例を挙げる。

資産家の老婦人ダイアナが殺害された。老婦人の息子ダミアンと同棲している女優が容疑者の1人に挙げられている。

- (11) Although she hadn't said so in as many words, there was clearly no love lost between her and Damian's mother, whose interest had extended no further than her grandchild, Ashleigh. [...] Drugs, parties, showgirls... it easily added up to a motive for murder. *On the other hand*, she had been in America when Diana was killed.—Horowitz, *The Word Is Murder* (彼女は多くは語らなかったが、明らかに彼女とダミアンの母親の間には失われるような愛情さえなかった。母親の興味は孫のアシュリーにしか及んでいなかった。[...] (ダミアンが関わっていたらしい) 薬物、パーティ、ショーガール... こういったものが積み重なって、容易に殺人の動機にまでなってしまう。とはいえ、彼女はダイアナが殺されたときには (ロンドンではなく) アメリカにいたのだ。)

on the other hand の先行部では女優が犯人であると考えられる理由が、後続部では犯人ではないと考える理由が述べられていて、内容の「対照性」は見られる。しかし、先行部と後続部で述べられる事象に「同時性」はない。

対照を表す on the other hand の使用領域に meanwhile が食い込んで行っているとすれば、今後は meanwhile の特徴である「同時性」が見られない用法が増える可能性がある。ちなみに、on the other hand に関して、Fraser (2006:75)<sup>29)</sup>には「対照性」がなく「同時性」のある以下の例が挙げられている。

- (12) Susan worked for a long time on the puzzle. *On the other hand*, the pizza burned up.— (スーザンは長い間パズルに夢中になっていた。その間にピザが焦げてしまった。)

この on the other hand は「同じころ、そうしているとき [間] に」の意であり、meanwhile の意味・

機能②にほぼ相当する。ここまで述べてきたことを考えると、meanwhile と on the other hand の使用領域の重なりが見られるようになってきている可能性がある。Swan<sup>4</sup> (2016: † 284)<sup>24</sup>)には、書き言葉における談話標識に関する記述がある。その中に balancing contrasting points の項があり、この機能をもつ談話標識として、on the one hand, whereas, while, on the other hand が挙げられている。今後、meanwhile がこの中に入る可能性がある。

## VI. ところで (話題転換)

この用法では前述の meanwhile の用法よりも幅広い談話構造に関わり、主に話し言葉で用いられて話題転換の機能を担う。意味・機能③の「一方では、対照的に」の用法では、事象Aと事象Bで述べられる内容に関して何らかの点で異なっているという「対照性」を表す。話題転換の用法では、事象Aと事象Bで述べられる話題自体が異なるという「対照性」が見られる。II. で挙げた英和辞典と英英辞典には、この機能に関する記述はない。Biber, Johansson, Leech, et al. (1999:879)<sup>2)</sup>では、meanwhile は移行を表す linking adverbial (接続副詞) の1つだが、例文は挙げられておらず、簡単に触れられているだけである。また、筆者が収集した実例の数に関しては、この用法は前述の①②③の用法より圧倒的に少ない。

### VI-1. 実例

例を見よう。マリッサは疾病管理センターに所属するウイルス学者の医師で、エボラ出血熱の伝染性を調べる実験をしたいと上司のダブチェックに伝えていた。ダブチェックはマリッサに、エボラ出血熱の病原ウイルスを扱えるほどの検査経験を十分に積むまで、病理性の少ないウイルスの仕事続けるように言う。ショックリーはマリッサの同僚である。

(13) “I believe I will know when you have had adequate experience,” said Dubchek interrupting her thoughts, “...or Tad Schockley will.” Marissa felt cheered. If it were up to Tad, she was certain that she would eventually get necessary authorization. “*Meanwhile*,” said Dubchek, stepping around his desk and sitting down, “I’ve got something more important to talk with you about. ...” —Cook, *Outbreak* (「十分な経験が積めたことは、私にはきっと分かる」ダブチェックは彼女の思案を中断させて言った。「...あるいは、タッド・ショックリーにも」マリッサは良かったと思った。タッドが決めるなら、結局はきっと必要な許可をもらえるだろう。「ところで」ダブチェックは机のふちを回って腰を下ろしながら言った。「君にもっと重要な話がある。…」)

重要な話とは、マリッサにエボラ出血熱の疑いのある患者が1人出たセントルイスの病院に行って、状況を確認して報告してほしいということである。meanwhile を合図に、ウイルスの検査経験に関することからダブチェックのマリッサに対する指令に話題が転換されている。

次例も同じ小説からの例文である。マリッサはエボラ出血熱の感染源を追っていて、感染した2人の医師(ザブリスキーとリクター)が行動を共にした機会は、学会しかないと主張する。

(14) “But it appears to be the only association between the two doctors,” protested Marissa. “I think I should follow up on it.” “Suit yourself,” said Dubchek. “*Meanwhile*, I’d like you to go down to pathology and make sure they take every precaution when they post Zabriski this morning. And

tell them that we want quick-frozen samples of liver, heart, brain and spleen for viral isolation.”—Cook, *Outbreak* (「でも、2人の医師の間にはそれ(学会)しか一緒になった機会はないようです」マリッサは抗議した。「私はこのことを徹底的に調べてみた方がいいと思います」「好きなようにしろ」ダブチェックが言った。「ところで、君には病理へ行って、今朝ザブリスキー医師に関わった時に、病理の職員が(感染に対して)あらゆる策を講じたかどうか確かめてもらいたい。それと、ウイルスを分離するために肝臓、心臓、脳、脾臓の急速冷凍標本を欲しいと伝えてくれ」)

meanwhile を合図に、2人の医師の感染源の特定に関することからダブチェックのマリッサに対する別の指令に話題が転換されている。

次例は、ある法律事務所に就職することになった新米弁護士のミッチを上司のオリバーが事務所内を案内する場面である。まず、法律図書館で同僚になる先輩弁護士たちに次のように切出す。

(15) OLIVER: He's our ... number one draft pick so to speak and, ah ... he's being romanced by the big boys from New York and Chicago and everywhere else. So, we have to sell him on our little firm here in Memphis. [専用食堂に場所を変えて] *Meanwhile* he's going to try not to be embarrassed while I remind you that he's about to graduate from Harvard with honors.—*The Firm* [映画台本] (彼は我が事務所のいわゆるドラフト1位で、えーそれで... ニューヨーク、シカゴ、その他のあらゆるところの大手に口説かれている。ということで、我々はこちらメンフィスの小規模な事務所を彼に売り込まなければならない。[専用食堂に場所を変えて] ところで、念のために言っておくが、彼はまもなくハーバードを優等で卒業するというと、彼は照れを隠そうとするだろうな。)

話し手はまずミッチのことを述べ、次に so に続けて法律事務所が置かれている立場について話す。そして meanwhile を合図に、ミッチのことへと話題が転換されている。

## VI- 2. 談話標識の機能の展開

本来は話題転換の機能をもたない談話標識が、話題転換の機能を担うようになる例は他にも見られる。たとえば、逆接や対照を表す機能をもつ談話標識が話題転換の機能を果たすことがある。このような談話標識は、談話標識の後件の内容が前件の内容からすると予想外であったり対照的な内容である。この談話標識がより大きな単位の発話や談話と関連して、談話標識の後件で前件とは異なる話題を導入する。具体例として but, however, in fact について、松尾・廣瀬・西川(2015:193-194, 45-46, 147)<sup>21)</sup>を参照されたい。

本来は話題転換の機能をもたない談話標識が話題転換を表すようになった他の例として、now, so, anyway, look, okay を挙げる。now は、「これまでの話題はさておき、今はこの新しい話題に集中する」よう相手に注意を促す機能をもつ(西川2011:76)<sup>30)</sup>。

so は、先行文脈から導かれる論理的・推論的結論を表す。さらに、より大きな単位の発話や談話と関連して、話題調整の機能(新しい話題の導入、話題転換、話題終結、会話全体の終結)を担うようになった(松尾・廣瀬・西川 2015:200-201)<sup>21)</sup>。導入される話題は、通例、話し手があらかじめ持ち出そうと考えていたものである(Bolden 2006, 2009)<sup>31,32)</sup>。

anyway は、話題調整の機能(新しい話題の導入、話題転換、話題終結、会話全体の終結)を担う。話題転換を表す場合は、もともとの本題から逸れた話題を元に戻したり、何らかの理由で本題

からずれて始まった談話を本来あるべき元の話に戻す機能をもつ（松尾・廣瀬・西川 2015:13）<sup>21)</sup>（西川 2011:80）<sup>30)</sup>。この機能には、*anyway* のもつ直前の文との間に「区切りをつける」、すなわち、談話の流れを「断ち切る」働きが反映されている（Schourup and Waida 1988:43-45）<sup>33)</sup>。

*look* は、意図的に聞き手の注意を話し手がこれから述べようとしていることに向かせるために用いられる。今の話題がこれからも続くと聞き手が考えている状況で、話し手が一方的にそれとは異なる話題を導入する（西川 2011:81-82）<sup>30)</sup>。

*okay* は、先行する話題の内容やその話題が終了したという事実には是認の意を表しつつ、次の話題に移る準備が整ったことを示したり、整ったふりをする事でむりやり次の段階に移行する際に用いられる（西川 2011:83-86）<sup>30)</sup>。

一方で、もっぱら話題調整の機能をもつ談話標識もある。*by the way* は、後続する発話内容がこれまで論じていた話題から外れることを合図し、その話題は話し手が予定せず余談として導入するものである（西川 2011:75）<sup>30)</sup>。

今後、話題転換の機能をもつ *meanwhile* の使用が増加するのか、また、話題転換を表す他の談話標識とどのような違いがあるのか、違いがあるとすれば *meanwhile* のもつ「同時性」や「対照性」という特徴が関係しているのか、*meanwhile* の談話標識としての機能の展開を考え併せて観察していきたい。

## VII. おわりに

時を表す副詞の *meanwhile* が談話標識としての機能を担うようになっていることを、実例を挙げて述べてきた。談話標識の機能は無秩序に展開するのではない。談話標識は、通例、単一の中核的意味（*core meaning*）をもち、言語的・非言語的文脈に基づいて、語用論的に解釈される（Fraser 2006:197, 2009:293, 306-307）<sup>3, 34)</sup>。

*meanwhile* の場合、「その間 [合間] に・(次に何かが起こるまで) さしあたっては」の意の時を表す副詞が談話標識として用いられると、「談話構成機能」をもつようになる。A *meanwhile* B の形で、事象Aと事象Bが同時に生じていることを表す「同時性」に焦点が当てられると、「同じころ・そうしているとき [間] に」の意で、主に小説などの語りにおいて視点の移動を合図する。事象Aと事象Bで述べられる内容のギャップである「対照性」に焦点が当てられると、「一方では・対照的に」の意で対照を表す。さらに、幅広い談話構造に関わり、事象Aと事象Bで述べられる話題自体が異なる「対照性」という特徴をもつと、主に話し言葉で用いられて、「ところで」の意で話題転換の機能を担う。話題転換の機能をもつ *meanwhile* の例はあまり多くなく、今後、使用例が増えていくのか注目していきたい。

最後に、談話標識の機能分類における連続性（*continuum*）にふれておく。1つの談話標識が複数の機能をもつことが多く、その場合、それぞれの機能を明確に区別することが困難なことがある。たとえば、例文(4)では、*meanwhile* は事象AとBの「同時性」に焦点が当てられた視点の移動の機能をもつが、同時に事象AとBで述べられる内容の「対照性」も感じられ、対照を表す機能も併せもつ。多くの談話標識が中核的意味から言語的・非言語的文脈に基づいて、さまざまな意味・機能を派生させていることの表れだと言える。

## 注

1. Fraser (1996)<sup>35)</sup> は、話し手の潜在的な伝達意図を合図する言語的に記号化された手がかり

を語用論標識 (pragmatic marker) とし (pp.167-168)、基本的語用論標識 (basic pragmatic marker)、解説的語用論標識 (commentary pragmatic marker)、並列的語用論標識 (parallel pragmatic marker)、談話標識 (discourse marker) に区分する。談話標識は、さらに話題転換標識 (topic change marker)、対比標識 (contrastive marker)、詳細表示標識 (elaborative marker)、推論標識 (inferential marker) に下位区分される。

Fraser (2009)<sup>36)</sup> においてそれまでの分類が改編され、全てを語用論標識 (pragmatic marker) に統括する。談話標識の幅広く談話を構成する働きを重視し、新たに談話マネジメント標識 (discourse management marker) を設定する。したがって、現段階での Fraser の分類は、以下ようになる。

Pragmatic Markers (語用論標識)

- ① Basic Markers (基本的語用論標識)
- ② Commentary Markers (解説的語用論標識)
- ③ Discourse Markers (談話標識)
  - a) Contrastive Markers (対比標識)
  - b) Elaborative Markers (詳細表示標識)
  - c) Inferential Markers (推論標識)
- ④ Discourse Management Markers (談話マネジメント標識)
  - a) Discourse Structure Markers (談話構造標識)
  - b) Topic Orientation Markers (話題方向付け標識)
  - c) Attention Markers (注意喚起標識)

詳細は、松尾・廣瀬 (2014:19-23)<sup>37)</sup> を参照されたい。本稿で論じている meanwhile を上記の分類に当てはめると、意味・機能③が談話構造標識 (③a)、④が話題方向付け標識 (④bあるいはc) となる。

2. meanwhile と on the other hand の使用例の数・頻度を、本論で挙げたコーパスで見てみる。表内の使用比率は、meanwhile を 1 とした場合の数値を示す。

表2：各種コーパスにおける meanwhile と on the other hand の出現数

(数値は2021年10月13日時点)

コーパス名	meanwhile	on the other hand	使用比率	コーパスの総語数
COCA	42,318	38,328	1 : 0.906	約 4 億 5 千万語
BNCweb	4,709 (100 万語あたり 47.9)	5,301 (100 万語あたり 53.92)	1 : 1.126	約 1 億語
SkELL	100 万語あたり 43.83	100 万語あたり 33.53	1 : 0.765	約 10 億語以上
Google Scholar	657,000	1,420,000	1 : 2.16	

いずれの場合も、前後の正確な文脈が分からないため meanwhile の意味・機能は特定できず、また、例文のジャンルも各コーパスで一定ではないが、以下のような傾向が分かる。on the other hand の

例はほぼ全て「対照」を表すとする。on the other hand の使用例が多いのが、BNCweb と、特に Google Scholar である。BNCweb の収録語数は、書き言葉と話し言葉の割合が9：1で、書き言葉の方が圧倒的に多い。Google Scholar は論文検索サイトであるので、収録されているのは基本的に書き言葉である。この2つのコーパスで on the other hand の使用例が多いということは、対照を表す場合、書き言葉では meanwhile よりも on the other hand が用いられる傾向が強いと言える。

## 参考文献

- 1) Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech, et al. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman, 1985.
- 2) Biber, D., S. Johansson, G. Leech, et al. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Longman, 1999.
- 3) Fraser, B., "Towards a theory of discourse markers." In K. Fisher (ed.) , *Approaches to Discourse Particles*. Studies in Pragmatic Series 1. Elsevier, 2006.
- 4) 『アクシスジーニアス英和辞典』中邑光男（編）大修館書店, 2019.
- 5) 『ウィズダム英和辞典』（第4版）井上永幸・赤野一郎（編）三省堂, 2019
- 6) 『エースクラウン英和辞典』（第2版）投野由紀夫（編）三省堂, 2017.
- 7) 『オーレックス英和辞典』花本金吾・野村恵造・林龍次郎（編）旺文社, 2011.
- 8) 『コンパスローズ英和辞典』赤須薫（編）研究社, 2019.
- 9) 『ジーニアス英和辞典』（第5版）南出康世（編集主幹）大修館書店, 2014.
- 10) *The New Oxford Dictionary of English*. Oxford University Press, 1998.
- 11) *BBC English Dictionary*. Harper Collins, 1992.
- 12) *Concise Oxford Dictionary*. (10th edition) Oxford University Press, 1999.
- 13) *Cambridge International Dictionary of English*. Cambridge University Press, 1995.
- 14) *Cambridge Dictionary of American English*. (2nd edition) Cambridge University Press, 2008.
- 15) *Collins COBUILD Student's Dictionary*. (3rd edition) Harper Collins, 2006.
- 16) *Collins COBUILD Learner's American English Dictionary*. (3rd edition) Collins, 2016.
- 17) *Oxford Advanced Learner's Dictionary*. (10th edition) Oxford University Press, 2020.
- 18) *Macmillan English Dictionary*. (2nd edition) Macmillan Education, 2007.
- 19) *Longman Dictionary of Contemporary English*. (6th edition) Longman, 2016.
- 20) *Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary*. (9th edition) Harper Collins, 2018.
- 21) 松尾文子・廣瀬浩三・西川真由美（編著）, 『英語談話標識用法辞典 43のディスコースマーカー』研究社, 2015.
- 22) WordNet: A Lexical Database for English. <https://wordnet.princeton.edu/>
- 23) Carter, R. and M. McCarthy, *Cambridge Grammar of English*. Cambridge University Press, 2006.
- 24) Swan, M., *Practical English Usage*. (4th edition) Oxford University Press, 2016.
- 25) *Corpus of Contemporary American English*. <https://www.english-corpora.org/coca/>
- 26) BNCweb (British National Corpus) . <http://bncweb.lancs.ac.uk/>
- 27) Sketch Engine for Language Learning. <https://www.sketchengine.eu/skell/>
- 28) Google Scholar. <https://scholar.google.co.jp/>
- 29) Fraser, B., "On the Universality of Discourse Markers." In K. Aijmer and A-M. Simon-

- Vandenberg, *Pragmatic Markers in Contrast*. Elsevier, 2006. 73-92.
- 30) 西川真由美, 「話題転換を表す談話標識」 *Setsunan Journal of English Education*. Setsunan University, Division of English, Faculty of Foreign Studies, 2011. 5, 69-90.
- 31) Bolden, G. B., "Little words that matter: Discourse markers 'So' and 'Oh' and the doing of other-attentiveness in Social Interaction." *Journal of Communication*. 2006. 56, 661-688.
- 32) Bolden, G. B., "Implementing incipient actions: The discourse marker 'so' in English conversation." *Journal of Pragmatics*. 2009. 41, 974-998.
- 33) Schourup, R. and T. Waida, *English connectives*. Kuroshio-shuppan, 1988.
- 34) Fraser, B., "An Account of Discourse Markers." *International Review of Pragmatics*. 2009. 1, 293-320.
- 35) Fraser, B. "Pragmatic markers." *Pragmatics*. 1996. 6 (2) , 167-190.
- 36) Fraser, B. "Topic Orientation Markers." *Journal of Pragmatics*. 2009. 41, 892-898.
- 37) 松尾文子・廣瀬浩三, 「英語談話標識の諸相 (1) —英語談話標識研究の変遷—」『梅光言語文化研究』2014. 5, 1-38.

#### 引用作品

##### 〈小説〉

- Archer, J., *False Impression*. 2006.
- Clinton, B. and J. Patterson, *The President Is Missing*. 2018.
- Cook, R., *Outbreak*. 1988.
- Grisham, J., *Camino Island*. 2017.
- Horowitz, A., *Moriarty*. 2014.
- , *The Word Is Murder*. 2017.
- Sheldon, S., *The Sky Is Falling*. 2001.
- Weisberger, L., *Revenge Wears Prada*. 2013.

##### 〈映画台本〉

- Charlie's Angels*. 2002.
- The Firm*. 2002.